

2

## 小学校の参考事例

2-1

小学校第2学年

# 指導計画例（小2）

学 期	各 教 科							道徳・特別活動		その他の活動
	国語	算数	生活	音楽	図画工作	体育	道徳	特別活動		
							道徳・特別活動			
1										<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">ちびっこグリーン隊 (清掃活動)</div> <p>○清掃の仕方を理解し、進んで取り組むことができる。 ○自分の役割を行うこと、友達と協力することの大切さを考えることができる。 ◆清掃活動の取組の中で、自分や友達のおよびに気付かせる。 ◆学級の係活動、清掃活動等で役割を自覚させる。 【かかわる】【はたす】</p>
2	<p>「話したいな、とくいな」と</p> <p>○自分の得意なことが聞いている人に伝わるように順序よく話すことができる。 ○友達との得意なことを興味をもって聞き、感想を話したり質問をしたりすることができる。 ◆得意なことを話す活動を通して、それぞれのよきよきに気付かせる。自分から生活に生かそうとする気持ちをはぐくむ。 【かかわる】【もとめる】</p>		<p>「ありがたうをどけよう」</p> <p>○自分の成長に関心を持ち、振り返ることを通して、自分が成長してきたことや、成長の背景には多くの人の支えがあったことに気付くとともに、成長を支えてくれた人に感謝し、未来に向かって意欲的に生活できる。 ◆地域の人たちが自己の成長にかかわっていることに気付かせる。 【かかわる】</p>				<p>「はたらくってたのしいなーのぶくんはポスターがかりー」</p> <p>○働くことのよきよきを感じ、みんなのために働こうとする心身を育てる。 ◆家庭での手伝いや学級の係活動の大切さに気付くことで、人々のために役に立とうとする気持ちをはぐくむ。 【はたす】</p>	<p>「かかりじまん大会しよう」</p> <p>○係活動や集会活動を通して、自分の役割に気付かせる。仲よくたぞうとするとともに、仲よく助け合い、学級生活を楽しくすることができる。 ◆「かかりじまん大会」の計画や集会活動を通して、自分の役割を自覚させ、進んで役割を果たそうとする意欲をはぐくむ。 【はたす】</p>		<p>朝読書</p> <p>○読書の楽しみや喜びを味わい、想像力や感性を豊かにすることができる。 ◆読書活動を通して、登場人物や著者の考えに共感し、よりよい生き方を考え、将来に向かって学び続けようとする意欲を高める。 【もとめる】</p>
3										

主題名 はたらくって楽しいな

資料名 のぶくんはポスターがかり

第2学年

道徳の時間

### 〈本時のねらい〉

○働くことのよさを感じ、みんなのために働こうとする心情を育てる。

### 志教育の視点

- ・家庭での手伝いや学級の係活動の大切さに気付くことで、人のために役に立とうとする気持ちをはぐくむ。

### 〈学習の流れ〉

#### 1 毎日やっているお手伝いや当番活動、係活動などの仕事について発表し合う。

- ・夕飯のときに家族のおはしを並べている。
- ・黒板係として、毎日黒板をきれいに消している。

#### ポイント

- 身近な生活場面を取り上げることによって、自分の日常の実践を意識しながら資料に入れていけるようになります。

#### 2 資料を活用し、登場人物の気持ちについて考える。

- 係になった当初の主人公の気持ちについて考える。
  - ・ポスター係になったとき、のぶくんはどんな気持ちでしたか。
- 係の仕事を忘れていた自分に対して、友達から期待の言葉をかけられたときの主人公の気持ちについて考える。
  - ・まさとくんに「楽しみにしている」と言われたとき、のぶくんはどんな気持ちでしたか。
- 一生懸命努めたことによって、みんなに喜んでもらった時の主人公の気持ちについて考える。
  - ・カマキリのポスターを笑顔で眺めていたのぶくんはどんなことを思っていたでしょう。

#### ポイント

- 事前に日常生活の中で児童の様子を把握しておき、意図的に指名したり、写真等を紹介したりして、自己有用感を高め、みんなのために働くことのよさが実感できるようにすることが大切です。

#### 3 これまでの自分の仕事を振り返り、みんなの役に立ってよかったと思ったことについて考える。

- ・お手伝いや当番活動、係活動を通して、周囲の人から喜んでもらった経験について振り返り、ワークシートに書いたり発表したりする。

### 夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・人の役に立とうとする気持ちをはぐくむために、生活の振り返りの場や手だてを工夫する。

は  
た  
す

題材名

「かかりじまん大会」をしよう

第2学年

学級活動

〈題材のねらい〉

○係活動や集会活動を通して、自分の役割に気付き、進んで果たそうとするとともに、仲よく助け合い、学級生活を楽しくすることができる。

志教育の視点

・「かかりじまん大会」の計画や集会を通して、自分の係活動の役割を自覚させ、進んで役割を果たそうとする意欲をはぐくむ。

は  
た  
す

〈題材の流れ〉

1 「かかりじまん大会」の計画を立てる。

- 「かかりじまん大会」でどんなことを発表するか話し合う。
  - ・教師と一緒に進行し、提案者の児童と教師が共に考え提案理由を明確にするなどして、話し合い活動を進めるようにする。
  - ・係ごとに自慢したい内容を話し合う。  
(仕事の内容や頑張っていること、大変なこと、うれしいことなど)
  - ・集会に向けての準備や役割分担について話し合う。

ポイント

- どんなことを発表するか、自分の考えをもって話し合いに臨めるようワークシートなどを工夫することが大切です。

2 「かかりじまん大会」の準備を進める。

- 係ごとに発表用シートや発表で使う道具の準備や発表の練習をする。

ポイント

- どの係も学級のみんなのことを考えて活動していることに気付かせるために、友達の頑張りに目を向けさせることが大切です。

3 「かかりじまん大会」(学級集会)をする。

- 発表会后、「ありがとうカード」を記入する。
  - ・発表を聞いて、他の係の頑張っていることを「ありがとうカード」に記入し、それぞれの係に渡す。

夢をはぐくみ志に高める手だて

・自分の係活動の役割を自覚させ、進んで果たそうとする意欲をはぐくむために、場の設定や指導法を工夫する。

活動名

ちびっこクリーン隊（清掃活動）

第2学年

その他の活動

か  
か  
わ  
る

〈活動のねらい〉

- 清掃の仕方を理解し、進んで取り組むことができる。
- 自分の役割を行うこと、友達と協力することの大切さを考えることができる。

志教育の視点

- ・清掃活動の取組の中で、自分や友達のよさに気付かせる。
- ・学級の係活動、清掃活動等での役割を自覚させる。

は  
た  
す

〈取組の概要〉

1 事前活動（学級活動、朝の会等で）

- ・自分たちの掃除について振り返る。
- ・掃除をすることの大切さを考える。
- ・「ちびっこクリーン隊」の活動とめあてを決める。
- ・「がんばりカード」の記録の仕方を知る。

ポイント

- 掃除に取り組むめあて、手順、自分たちの工夫などをカードにまとめさせることで、意欲を高めることにつながります。

2 日常清掃活動（「ちびっこクリーン隊」出動）

- 掃除始め：準備を素早くする。
  - ・身支度し、掃除の順序やめあてを確認する。
- 掃除中：力いっぱい、協力して掃除をする。
  - ・自分の役割を確かめて取り組む。（「一人一仕事」に挑戦！）
  - ・終わっていないところは協力して取り組む。
- 掃除後：きちんと後片付けをし、反省会をする。
  - ・用具を整頓し、掃除箇所を全員で点検する。
  - ・「がんばりカード」に記入する。
  - ・掃除を終えた感想を輪番で話す。（きれいになった気持ちよさや頑張ったところなど）

ポイント

- 活動中に効果的に巡回し、教師の見取り(評価)を行うことが大切です。また、高学年児童の一生懸命な姿を見せることも効果的です。

3 事後活動（学級活動、帰りの会等で）

- ・頑張った友達の紹介や、掃除中のよい姿や用具の後始末について教師の話聞く。
- ・他のグループの掃除の様子を聞き、よさを認め合う。
- ・他の教師から励ましのメッセージを聞く。

ポイント

- 低学年では、短い期間ごとの振り返りが大切です。友達や先生からの評価、他の学年の先生からの励ましなどは、役割を果たす意欲を高めます。

夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・互いのよさに気づき、活動への意欲を高めるために、自分や友達の頑張ったことを伝え合う活動の場を設定する。

活動名

朝読書

全学年

その他の活動

### 〈活動のねらい〉

- 読書の楽しみや喜びを味わい、想像力や感性を豊かにすることができる。

### 志教育の視点

- ・読書活動を通して、登場人物や著者の考えに共感し、よりよい生き方を考え、将来に向かって学び続けようとする意欲を高める。

### 〈活動の流れ〉

- 朝の読書活動を業前時間に位置付け、年間を通して実施する。
  - ・業前時間に読む本を児童が事前に用意しておく。
  - ・1日で読み切る作品だけではなく、継続して読み続けるものなど、興味に応じた作品を選択する。
  - ・教師も一緒に読むようにする。
- 学期、月ごとに「伝記週間」、「地域の偉人週間」などを設定して、先人の偉業に触れる。
  - ・低学年など発達の段階に応じて、読み聞かせの方法をとる。
  - ・「みやぎの郷土資料」等を配付するなど、同じ資料を読む方法も考えられる。
- 読み終えた本について紹介カードに記入し掲示する。
  - ・面白くてみんなに伝えたい部分を紹介カードに書くことで、友達にも感動を伝える。
- 昼の放送などにより、読書の啓発をする。
  - ・委員会が中心になり、新刊本や紹介カードを伝えることにより一層読書に興味をもつようにする。

#### ポイント

- 鎌田三之助、土井晩翠、落合直文など、郷土の偉人作品を県内外の図書館から集め、家庭にも協力してもらうなど、読書環境を整備することが大切です。

#### ポイント

- 学年の発達の段階や一人一人の読書に対する興味に応じた本の紹介や、互いの読書活動の交流を継続的に行っていくことが大切です。

### 夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・よりよい生き方を考え、将来に向かって学び続けようとする意欲を高めさせるために、テーマを設けた読書週間の設定や、読書に興味をもたせるような工夫をする。

単元名  
ありがとうをとどけよう

第2学年  
生活科 (学校支援地域本部事業活用事例)

〈活動のねらい〉

○自分の成長に関心を持ち、振り返ることを通して、自分が成長してきたことや、成長の背景には多くの人の支えがあったことに気付くとともに、成長を支えてくれた人に感謝し、未来に向かって意欲的に生活できる。

志教育の視点

・地域の人たちが自己の成長にかかわっていることに気付かせる。

〈活動の流れ〉

1 自分を支えてくれたり、様々なことを教えてくれたりした人たちのことを思い出す。



・これまでまとめてきた生活科シートや感想カードをもとにして、自分ができるようになったことを見つける。  
・支えてくれた人がいることで、自分ができるようになったことが増えたことに気付く。

ポイント

●地域の人たちの支援の様子が分かる写真やビデオを提示することで、自分や友達の成長を支えてくれる人がいることに気付かせるとともに、感謝の気持ちを抱かせることが大切です。

2 自分なりの方法でお礼の気持ちを表現する。



・支えてくれた人との会話や活動を思い出し、感謝の気持ちを表すためにどんな方法が一番いいかを考える。  
・感謝状、絵日記、紙芝居、ありがとうメダル、絵本、よびかけ、創作劇等、感謝の気持ちを表す準備をする。

ポイント

●感謝の気持ちを伝える場を設けることで、地域の人との交流を図ることができます。また、思いが伝わった達成感を味わうことができます。

3 自分を支えてくれたり、様々なことを教えてくれたりした人たちにお礼の気持ちを伝える。



・支えてくれた方々をミニ発表会（地域参観）へ招待し、歌や紙芝居、よびかけなどの発表をプレゼントする。

夢をはぐくみ志に高める手だて

・多くの人々が自己の成長にかかわっていることに気付かせるために、地域の人たちとのかかわりの場の設定や、振り返りの手法を工夫する。

単元名

みんなでつくろうフェスティバル

第2学年

生活科

かかわる

〈活動のねらい〉

○これまでにかかわった人々を招待して、これまで学んできたことや心に残った出来事を発表することで感謝の気持ちを伝えることができる。

志教育の視点

- ・フェスティバルの活動での役割を自覚させる。
- ・活動の中で、自分のよさや友達、地域の方々のよさに気付かせる。

はたす

〈活動の流れ〉

1 計画をたてる。

○伝えたい人や招待する人たちに喜んでもらえる計画を立てる。

2 準備をする。

- ・招待状やポスターの作成。
- ・子どもも大人も喜ばせることができる発表やゲームコーナーなどについて、発表方法や内容を工夫する。
- ・作品展示やゲームコーナーのための準備をする。

ポイント

- 昔遊びコーナーなどで招待した人たちと触れ合い楽しむことができるよう輪番制などの工夫が大切です。

3 フェスティバルをしよう。

- ・第1部「学んだことの発表」第2部「招待者と一緒に交流」の2部構成で開催する。
- ・発表の部では、歌や合奏、ダンスなどを披露する。
- ・交流の部では、地域のお年寄りと一緒に活動したり、昔の遊びを教わったりする各種コーナーを設定する。

ポイント

- 地域の方々と連携して活動が行われるよう、定期的に活動の様子をお知らせすることも大切です。

4 活動を振り返る。

- ・振り返りカードに感想を記入し発表する。
- ・参加した地域のお年寄りにお礼の手紙やメッセージカードを書く。

夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・感謝の気持ちを表現させるために、活動の場を設定し、発表や交流の方法を工夫する。

単元名

話したいな、とくいなこと

第2学年

国語科

かわる

もめる

〈本時のねらい〉

- 自分の得意なことが聞いている人に伝わるように順序よく話すことができる。
- 友達の得意なことを興味をもって聞き、感想を話したり質問をしたりすることができる。

志教育の視点

- ・得意なことを話す活動を通して、それぞれのよさに気付き、自分の得意なことを更に伸ばし、これからの生活に生かそうとする気持ちをはぐくむ。

〈学習の流れ〉

- 1 本時のめあてを確認する。
  - 友達の前で得意なことを話す取組であることを確かめる。
- 2 話す人、聞く人が気を付けることを確かめる。
  - これまで学習してきたことを振り返り、話す側、聞く側の留意点について確認する。
  - ＜話す人＞
    - ・話したいこと（得意なこと）を順序よく話す。
    - ・教室の後ろの人にも聞こえる声で話す。
    - ・早口にならないように気を付ける。
  - ＜聞く人＞
    - ・話す人をよく見て、何が得意なのかをしっかりと聞く。
    - ・聞いて思ったことやもっと知りたいことを進んで尋ねる。
- 3 友達の前で得意なことをくわしく話す。
  - 「はじめ」、「なか」、「おわり」と話し方の構成例を示して話させる。
  - ペア学習やグループ学習などを取り入れるとともに、メモや評価シートなどを工夫し、相互に伝わったかを確認できるようにする。
    - ・できるだけ聞く人を見て話す。
    - ・友達の話をよく聞き、もっと知りたいことを質問したり、感想を言えるようにする。
- 4 発表のまとめをする。
  - 聞き取った友達のよさを伝え合うとともに、次に誰に伝えたいかを考えさせる。

ポイント

- 声の大きさや話す速さといった技能の評価だけでなく、聞き取った内容や友達のよさを書き込むことができる簡単なワークシートなどを用意しておくとういでしょう。

ポイント

- 自分の得意なことを友達に認めてもらったという思いを十分に感じさせることで、さらに得意なことを伸ばしていこうとする気持ちをもたせましょう。また、他のグループの人や家族にも教えたいという意欲へつなげましょう。

夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・それぞれのよさに気付き、自分の得意なことを更に伸ばし、これからの生活に生かそうとする気持ちを育てるために、場の設定や指導法を工夫する。

題材名 **これ いい かんじ**  
**ザラザラ フワフワ**

第2学年  
図画工作科

〈題材のねらい〉

- 材料の特性を体全体で感じながら、イメージを広げる。
- 形や色の変化を生かして、楽しくつくる。

志教育の視点

- ・自分の好きなことや興味をもったことに進んで取り組み、自分の思いを表そうとする気持ちをはぐくむ。

〈学習の流れ〉

1 材料の特徴をとらえる。

- 実際に触れることで、形や色や感触を味わう。
- ・自分で集めたものや材料コーナーを活用する。
- ・エアキャップ、モール、新聞紙、クラフト紙、ウレタンなどを体感する。

ポイント

- 材料は、色や形、材質の異なるものを準備しましょう。感動や驚きを生み出すことで、多様な活動ができるようにさせることが大切です。

2 材料の特徴から自分の思いをふくらませ、作品を作る。

- 色や形の変化を工夫する。
- ・材料の変化を楽しみながら、つくりたいものを考える。  
丸めたり、ねじったり、膨らませたりする。
- ・自分の表したい思いをもって活動する。
- 形を整える。
- ・思い浮かべる姿に近付けていく。  
大きさや形、色を考えながらつくり上げていく。
- ・自分の表したい思いをイメージして活動する。

ポイント

- 材料を見つめながら気付いたり、考えたりすることができるような教師の働きかけが大切です。

3 考えや思いを発表する。

- お互いの作品を鑑賞し、発表し合う。
- ・互いに鑑賞し合い、考えや思いを聞き合うことで、更に自分の思いやイメージを広げる。

ポイント

- お互いの作品を鑑賞する際、友達のよい点や工夫している点に目を向けることができるようにしていくことが大切です。

4 次時への意欲を高める。

- 更に工夫することを考える。

夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・自分の好きなことや興味をもったことに進んで取り組み、自分の思いを表そうとする気持ちをはぐくむために、造形活動の楽しさを味わわせる場を設定する。

2-2

小学校第4学年

# 指導計画例（小4）

学 期	各 科							道徳・総合的な学習の時間・特別活動			その他の活動	
	国語	社会	算数	理科	音楽	図画工作	体育	道徳	総合的な学習の時間	特別活動		
1				<p><b>「電気のほたらき」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「自動車（乾電池とモーターをつなぎ電気の力で）速く走らせるにはどのようにするかはよいか」を実験を通して考える。</li> <li>◆課題解決のための考え方を求めて、主体的に取り組もうとする気持ちをはぐくむ。</li> <li>【もどめる】</li> </ul>				<p><b>「育ちゆくからだとわたしーわたしは4年生」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○身長や体重が年齢に伴って変化することや、発達の違いや個人差があることを理解する。</li> <li>◆健康的で明るい毎日を送ろうとする意欲を高める。</li> <li>◆お互いの違いやよさを認め合う気持ちをもつとともに、自分の成長には多くの人がかかわっていることに気付かせる。</li> <li>【もどめる】</li> </ul>				<p><b>楽しいスピーチ（朝の会・帰りの会）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○伝える相手や目的を明確にして、自分の考えを豊かに表現する力を身に付ける。</li> <li>◆朝の会（帰りの会）の活動の中で自信をもって自分の意見を発表させるとともに、互いのよさを認めさせる。</li> <li>【かかわる】</li> </ul>
2	<p><b>「取材したことをもとに学級新聞をつくらう」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○取材したことを整理し、分かりやすい記事を書くことができていく。</li> <li>○読み手の興味を引く書き方を工夫することができる。</li> <li>◆お互いの意見や考えを伝え、かかわり合うことで、互いを認め合おうとする気持ちをはぐくむ。</li> <li>【かかわる】</li> </ul>	<p><b>「品井沼干拓」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○品井沼干拓にかかわる排水路や河川改修が果たしている役割を理解するとともに、それをつくった人々の苦勞や願い、地域をよりよくしていくこうとした思いを理解する。</li> <li>○品井沼干拓にかかわった人々に関心をもち、資料を活用したり現地調査をしたりして、その働きの苦勞を考えることが出来る。</li> <li>◆集団や社会の一員としての役割に気付かせる。</li> <li>◆人のために役立つ書き方をした先人から自分の生き方を考えさせる。</li> <li>【もどめる】【はたす】</li> </ul>			<p><b>「いろいろな音を聴き取ろう」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○音色の違いを生かし、おもしろい音の組み合わせをつくる。</li> <li>◆よりよいものをつくるために、友達とかわかることの大切さに気付かせ、最後まで取り組もうとする気持ちをはぐくむ。</li> <li>【もどめる】【かかわる】</li> </ul>	<p><b>「おく場所を考えながらワンダーランドへようこそ」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○夢や不思議の世界の想像を楽しむ。</li> <li>○友達と協力して不思議の国をつくる。</li> <li>◆互いのよさや友達と協力する大切さに気付かせ、最後自分の役割を自覚させる。</li> <li>【はたす】【かかわる】</li> </ul>			<p><b>「学芸会を成功させよう」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○友達と協力して、学芸会を成功させるための目標を決めることができる。</li> <li>◆話し合い活動を通して、集団の一員としての役割を果たそうとする意欲を高める。</li> <li>【はたす】</li> </ul>			
3								<p><b>「友達だからこそ一番大きな絆はが巻一」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「1/2成人式」への思い、ときには悲告しながら友情を深めていこうとする心情を育てる。</li> <li>◆友達をよさを認め合い、互いに信頼することの大切さを自覚し、励まし合おうとする気持ちをはぐくむ。</li> <li>【かかわる】</li> </ul>	<p><b>「1/2成人式」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「1/2成人式」への思い、これまでの10年・これから10年（年）」作りを通して、将来への夢や希望を抱くことができる。</li> <li>◆これまでの自分を振り返り、支えてくれた人への感謝の念を抱かせ、励まし合おうとする気持ちを高め、絆を深らさせる。</li> <li>◆「1/2成人式」を通して、自らの生活を振り返り、絆への夢や希望を膨らませる。</li> <li>【かかわる】【もどめる】</li> </ul>			

主題名 友達だからこそ

資料名 大きな絵はがき

第4学年

道徳の時間

### 〈本時のねらい〉

○友達と互いに信頼し合い、ときには忠告し合いながら友情を深めていこうとする心情を育てる。

### 志教育の視点

- ・ 友達のよさを認め合い、互いに信頼することの大切さを自覚し、励まし合おうとする気持ちをはぐくむ。

### 〈学習の流れ〉

1 友達がいてよかったと思うことについて発表し合う。

2 資料を活用し、登場人物の気持ちについて考える。

- ・ 絵はがきを受け取ったときの主人公の気持ちについて考える。
- ・ 料金不足について告げるべきかどうか迷う主人公の心の揺れについて自己を託しながら考える。
- ・ ペアで役割を交代しながら役割演技を行い、それぞれの立場になって感じたことや考えたことをグループで意見交換する。
- ・ 告げることに関心したときの主人公を支えた心（思い）について考える。

#### ポイント

- 葛藤場面では、役割演技等の手法や意見交換を行う場などの工夫をすることで、どちらの行為も友達のことを思っているの判断であり、それぞれの立場の考えがあることに気付かせましょう。

3 これまでの自分を振り返るとともに、今後、どのような友達関係を築いていきたいかについて考える。

- ・ 自分の考えをワークシートに書く。

4 感得した価値について温め、生活につなげる。

- ・ 心のノートを活用し、信頼・友情のある生活についての思いを深める。

#### ポイント

- 友達とかわる中で、互いのよさを認め合ったり、ときには忠告し合ったりしながら、共に成長するという視点にも気付かせることが大切です。

### 夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・ 友達のよさを認め合い、互いに信頼することの大切さを自覚し、励まし合おうとする気持ちをはぐくむために、葛藤場面を設定し、多様な思いや考えに触れさせるような指導を工夫する。

題材名

学芸会を成功させよう

第4学年

学級活動

〈本時のねらい〉

○友達と協力して、学芸会を成功させるための目標を決めることができる。

志教育の視点

・話し合い活動を通して、集団の一員としての役割を果たそうとする意欲を高める。

〈学習の流れ〉

1 これまでのことを振り返り、本時の課題をつかむ。

- これまでの学芸会を振り返る。
  - ・全員で歌を歌うなどして意見を発表しやすい雰囲気をつくる。

2 話し合いをする。

- 提案者から、今日の議題について提案理由を発表する。  
 「学芸会を成功させよう。」
- ・思い出に残るような学芸会にすることが大切であることを共感させ、課題意識をもって話し合わせる。
- 学芸会を成功させるための目標についてグループで話し合い、グループとしての案を発表する。
  - ・各グループからの案や意見のよさを認め、多くの意見を取り入れた目標にしていく。
  - ・話し合いを通して、互いに協力して頑張ろうとする意欲を高める。

3 決まったことを確認し、話し合いを振り返る。

- 学級の目標を確認する。
- 本時の課題をしっかりと話し合えたか振り返る。

4 学級の目標を受け、自分の目標を決める。

- 今日の話し合いや学芸会での自分の役割を考えて個人目標を決め、カードに記入する。
- それぞれの目標を発表し、意見を交換する。

ポイント

●昨年度の学芸会のプログラムや作文などを提示することで、より思い出深い学芸会となるような目標づくりに意欲をもたせましょう。

ポイント

●学芸会の全校、学年、学級の目標を踏まえるとともに、自分の役割を具体的にイメージして個人の目標を設定させましょう。

は  
た  
す

夢をはぐくみ志に高める手だて

・集団の一員としての役割を果たそうとする意欲を高めるために、話し合いの場の設定を工夫する。

単元名

1/2成人式

第4学年

総合的な学習の時間

かわる

もめる

〈単元のねらい〉

- 「1/2成人式」へ向けての「自分史（これまでの10年・これからの10年）」作りを通して、将来への夢や希望を抱くことができる。

志教育の視点

- ・これまでの自分を振り返り、支えてくれた人への感謝の念を抱かせる。
- ・「1/2成人式」を通して、自らの生活を振り返り、将来への夢や希望を膨らませる。

〈単元の流れ〉

1 「1/2成人式」の準備について話し合う。

- 準備日程や発表の内容を確認する。
- ・「1/2成人式」の概要。
- ・「自分史（これまでの10年・これからの10年）」の内容

2 「自分史（これまでの10年・これからの10年）」を作成する。

- 今までの自分を振り返り、これからの自分をイメージする。
- ・第1部：これまでの自分（頑張った思い出）
- ・第2部：これからの自分（将来への夢や希望）

3 招待状を作る。

- 「1/2成人式」に招待したい人を考える。
- ・相手に合った内容の招待状を作成する。

4 「1/2成人式」を行う。

- 「自分史（これまでの10年・これからの10年）」を基に全員が自分の思いを発表する。
- ・将来への夢や希望を中心に発表する。

5 「1/2成人式」を振り返る。

- 学んだことを「自分史（これまでの10年・これからの10年）」の「2011年1/2成人式」の欄に記入する。

ポイント

- 第1部は、生年月日、自分の名前の由来、これまで頑張ったと思う5つの出来事で構成します。第2部は「6年生のとき」、「中学校生活」、「高校生活」、「二十歳の自分」の4つで構成し、そのとき自分がどのようなことをしているかという視点でイメージを膨らませられるよう指導します。

ポイント

- 自分史は全員分掲示し、参加者全員に認めてもらうことや、お互いの将来への思いを認め合うことが大切です。

夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・自分自身や自分を支えてくれている人について改めて考えさせるために、過去から未来をつなぐ自分史作りに取り組みさせる。

活動名 楽しいスピーチ  
(朝の会・帰りの会)

第4学年  
その他の活動

〈活動のねらい〉

○伝える相手や目的を明確にして、自分の考えを豊かに表現する力を身に付ける。

志教育の視点

- ・朝の会（帰りの会）の活動の中で、自信をもって自分の意見を発表させるとともに、互いのよさを認めさせる。

〈活動の流れ〉

1 朝の会（帰りの会）でスピーチを行う。

- 新聞記事の紹介をするスピーチを行う。
- ・選んだ新聞記事についてのスピーチメモを準備する。
- ・新聞記事の紹介だけでなく、その記事に対する自分の考えや意見を発表する。

ポイント

- 安心して発表できるようにメモの準備や発表の仕方について例示するなど支援することが大切です。

2 分かりやすい話し方を工夫する。

- ・国語科の学習と関連付け、「声のダイヤル」や「話型」を意識して、分かりやすい話し方になるようにする。

ポイント

- 互いの発表を認め、自分と違う考え方に対しても受け入れることができる共感的な学級づくりが大切です。

3 意見や感想を発表する。

- スピーチに対する意見や感想を発表する。
- ・互いの考え方の違いや共感できることなどを共有する。

ポイント

- 日々のスピーチ活動を通して、お互いのよさを認め合う体験を積み重ねることが大切です。

4 意見の交流を図る。

- よかった点を評価し合い、共通の話題で意見の交流を行う。

5 次に話をする友達を紹介する。

夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・互いのよさを認め合えるように、発表・交流の場を設定する。

単元名

取材したことを基に学級新聞を作ろう

第4学年

国語科

〈本時のねらい〉

- 取材したことを整理し、分かりやすい記事を書くことができる。
- 読み手の興味をひく書き方を工夫することができる。

志教育の視点

- ・お互いの意見や考えを伝え、かかわり合うことで、互いを認め合おうとする気持ちをはぐくむ。

〈学習の流れ〉

- 1 本時のめあてを確認する。
  - ・互いの班の新聞のよい点と改善点を伝え合うことを確認する。
- 2 グループ内で話し合いを行う。
  - ・前時までにグループで作成した新聞について、更によりよい新聞になるように改善点を考え、付箋に記入して貼り出し、その理由を発表し合う。
- 3 他の班の新聞を見合う。
  - ・他の班の新聞の改善点を見つけるとともに、よい点、工夫している点もできるだけたくさん見つけるようにする。
- 4 自分の班の新聞のよい点、改善点について話し合う。
  - ・自分たちで考えた改善点と他の班からのアドバイスとを比較しながら、更にどのようにしたらよいものになるかを考える。
- 5 改善点をまとめ、学習カードに記録する。
- 6 お互いの班の新聞の改善点を発表する。



ポイント

- 改善の視点をはっきりと示して話し合いをさせましょう。構成や内容、新聞に込められた思いや願いに気付かせることが大切です。

ポイント

- 改善の理由などを明確に発表し合う中で、お互いを認めたり自己を生かす体験をさせることが大切です。

夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・お互いを認め合おうとする気持ちをはぐくむために、お互いの考えを伝え合い、かかわり合う場の設定や手法を工夫する。

単元名

品井沼干拓

第4学年

社会科

〈単元のねらい〉

- 品井沼干拓にかかわる排水路や河川改修が果たしている役割を理解するとともに、それをつくった人々の苦労や願い、地域をよりよくしていこうとした思いを理解する。
- 品井沼干拓にかかわった人々に関心を持ち、資料の活用や現地調査を行うことを通して、その働きや苦労を考えることができる。

志教育の視点

- ・集団や社会の一員としての役割に気付かせる。
- ・人のために役立つ生き方をした先人から、自分の生き方を考えさせる。

〈単元の流れ〉

1 品井沼干拓について概要を知る。

- 元禄・明治排水路工事、吉田川の改修と工事、干拓にかかわった人々について、資料を基に概要をつかみ、課題や調査方法などをとらえる。

ポイント

- 鎌田三之助の行動や干拓にかかわった人々の働きや苦労に目を向けさせることが大切です。

2 品井沼干拓について社会見学や資料等で調査する。

- ワークシートやノートに、スケッチや文で記録する。
- ・干拓にかかわった人々の働きや苦労についても記録させる。

3 調査の結果をまとめる。

- 自分で選択した表現方法でまとめる。

ポイント

- 目的を達成するための努力に向けた生き方にも目を向けさせることが大切です。

4 品井沼干拓についての発表会をする。

- 品井沼干拓にかかわる排水路や河川改修が果たしている役割、干拓にかかわった人々の働きや苦労について、分かったことや考えたことを発表する。

5 学習のまとめをする。

夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・先人の思いや願いを考えて記入できるような学習カードを工夫する。

も  
と  
め  
る

は  
た  
す

単元名

電気のはたらき

第4学年

理科

〈本時のねらい〉

- 「自動車を（乾電池とモーターをつなぎ電気ので）速く走らせるにはどのようにすればよいか」を実験を通して考える。

志教育の視点

- ・課題解決のための考え方を求めて、主体的に取り組もうとする気持ちをはぐくむ。

〈学習の流れ〉

1 本時のめあてを確認する。

- 乾電池とモーターをつないで車を速く走らせよう。
- ・乾電池とモーターのつなぎ方（回路の考え方）についての確認をする。
- ・乾電池の向きとモーターの回転の関係を確認する。
- ・前時に製作した車の点検を行う。

ポイント

- 探究心をもって実験に取り組ませることで、理科の楽しさを味わわせ学習の意欲を高めることが大切です。

2 実際に車を走らせてみる。

- 実際に模型の車を走らせてみる。
- ・電気で車を走らせるためには、どのような条件が必要か考える。

ポイント

- 理由を考えて予想を立てさせたり、結果の考察をさせたりすることが大切です。

3 課題解決のための話し合いや実験をする。

- 速く走らせるための方法を考え、話し合う。
- 様々な方法を試しながら、速く走らせるための方法を確認する。

4 次時への期待をもたせる。

- 次時の活動の方向を示し、意欲付けとする。

夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・課題解決に向けて、主体的に取り組めるよう試行錯誤の時間を十分確保するなど追究の場を工夫する。

単元名

いろいろな音を感じ取ろう

第4学年

音楽科

かかわる

もとめる

〈本時のねらい〉

○音色の違いを生かし、おもしろい音の組み合わせをつくる。

志教育の視点

- ・よりよいものをつくるために、友達とかかわることの大切さに気付かせ、最後まで取り組もうとする気持ちをはぐくむ。

〈学習の流れ〉（2時間扱い）

1 いろいろな打楽器の音色の違いを感じ取る。

- いろいろな打楽器を鳴らして聴き比べる。
- ・自分の好きな音、興味をもった音について学習カードに記入する。

2 グループごとに、おもしろい音の組み合わせになるように話し合う。

- 好きな音や興味のある音を基に、グループごとに設定したイメージに合った音づくりに取り組む。
- グループごとに「お祭り」や「星の世界」等のテーマを考え、そのテーマに合う打楽器の組み合わせを工夫する。
- ・打楽器の材質の違い、音の強さによる違いなどに気を付けて試してみる。
- ・打楽器を鳴らす分担と順番を決める。
- ・図形楽譜等にまとめる。
- ・演奏の練習をする。

ポイント

- よりよいものをつくるためにグループで十分意見交換をさせることが大切です。

3 グループごとの発表会をする。

- テーマに合わせて好きな音、興味をもった音を組み合わせ、演奏する。
- ・他のグループの演奏について感想を発表する。

ポイント

- 自分たちの作品を発表することの楽しさや他の作品のよさに目を向けさせ、よりよいものをつくろうとする意欲を高めることが大切です。

4 感想を基に自分たちの演奏を振り返り、よりよいものにするために練習する。

- よりテーマに合った演奏を工夫して練習し、発表する。

夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・友達とかかわることの大切さに気付かせ、最後まで取り組もうとする気持ちをはぐくむために、よりよいものをつくる喜びを体験する活動を設定する。

題材名 おく場所を考えながら  
ワンダーランドへようこそ

第4学年  
図画工作科

か  
か  
わ  
る

### 〈題材のねらい〉

- 夢や不思議の世界の想像を楽しむ。
- 友達と協力して不思議の国をつくる。

### 志教育の視点

- ・ 互いのよさや友達と協力することの大切さに気付かせる。
- ・ 制作活動の中で自分の役割を自覚させる。

は  
た  
す

### 〈学習の流れ〉

- 1 ワンダーランドを想像する。
  - 行ってみたい場所を決める。
    - ・ 扉の向こうに広がる世界に思いをはせる。
    - ・ 一人一人の考えをグループで出し合い、場所と係分担を決める。
- 2 扉と絵を制作する。
  - 係ごとにそれぞれが作り上げる。
    - ・ 扉をつくる、下絵を描く、着色するなどの手順を検討する。
    - ・ 扉を置く場所に行って雰囲気を楽しむ。
    - ・ 進み方を確認し合いながら活動する。
- 3 発表する。
  - グループの発表を行う。
    - ・ それぞれ選んだ場所でワンダーランドを発表する。
    - ・ 他のグループの発表を見て、不思議の世界を感じる。
- 4 思いを共有する。
  - 感じたことを発表したり、友達の感想を聞いたりする。
    - ・ 友達の思いを受け止め、互いを認め合う。

#### ポイント

- 一人一人が思い描いたことを互いに練り合い、発想を刺激しながら、グループとして構想させていく必要があります。

#### ポイント

- 分担を確認させるとともに作品の進行状況を意識できるような教師の働きかけが大切です。

#### ポイント

- 思ったことをメモしたり、友達と語り合ったりすることで、多様な考えに気付かせ、制作過程における頑張りも認め合わせることが大切です。

### 夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・ 互いのよさや友達と協力することの大切さに気づき、役割を自覚させるために、共同で制作する活動を設定する。

単元名 育ちゆくからだわたし（保健）

題材名 わたしは4年生

第4学年

体育科

か  
か  
わ  
る

も  
と  
め  
る

### 〈本時のねらい〉

○身長や体重が年齢に伴って変化することや、発達のしかたには個人差があることを理解する。

### 志教育の視点

- ・健康的で明るい毎日を送ろうとする意欲を高める。
- ・お互いの違いやよさを認め合う気持ちをはぐくむとともに、自分の成長には多くの人がかかわっていることに気付かせる。

### 〈学習の流れ〉

#### 1 小学校に入学したときから今までの成長に気付く。

- 小学校入学時から4年生までの成長を視覚的に実感する。
- ・小学校1年生の入学時の写真やその頃に身に付けていた物を見て、自分の成長に関心をもつ。
  - ・一人一人の身長の伸びを表した紙テープ（教師が準備）を手にすることにより、自分の成長を感じる。

#### ポイント

- 自分の成長を実感するとともに、お互いの成長を認め合い喜び合うことができる工夫が大切です。

#### 2 自分の身長の伸びを表したグラフを作成し、気付いたことを話し合う。

- 誰もが年齢に伴って身長が伸びていくことを理解し、どのように伸びてきたか考える。
- ・友達の発表を聞いたり、グラフを見たりすることにより、個人差があることに気付く。

#### ポイント

- 個人差や性差があることを理解させるとともに、一人一人がお互いの違いやよさを認め、今の自分を大切にしながら、今後の成長への期待感を高めることが大切です。

#### 3 6才から15才までの6人の育ち方（教科書）について考え、発表する。

- 教科書に提示されている6人の育ち方について違いを見つけ、どんな育ち方の特徴があるか考える。
- ・個人差や性差について理解を深めるとともに、自分のこれからの成長に対し期待をもつ。

#### 4 本時の学習を振り返る。

- ・教師のまとめの話を聞くとともに、本時の学習で分かったことや思ったことをワークシートに書き、発表する。

### 夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・お互いの違いやよさを認め合う気持ちをはぐくみ、多くの人とのかかわりに気付かせるために、それぞれの成長を実感させる教材提示の工夫や認め合う場の設定をする。

2-3

小学校第6学年

# 指導計画例 (小6)

学 期	各 科										道 徳・総合的な学習の時間・特別活動	その他の活動	
	国 語	社 会	算 数	理 科	音 楽	図画工作	家 庭	体 育	外国語活動	道 徳			総合的な学習の時間
1					<p>「楽譜を聴もうー楽譜を風ながら歌いましょうー」</p> <p>○ハ長調の楽譜に親しみ、音程やリズムに気を付けながら視唱したり、拍の流れに乗りながら演奏したりすることが出来る。</p> <p>◆合唱への取組を通して、最学年生活への期待感を高め、主体的に音楽に取り組む気持ちをばぐくむ。</p> <p>【もとめる】</p>		<p>「朝の生活を重畳そう」</p> <p>○朝食の大切さを理解し、栄養バランスのよい朝食をおかずを考え、朝食づくりの計画を立てる。</p> <p>◆家族の一員としての自分の役割を自覚させる。</p> <p>【はたす】</p> <p>【かかわる】</p>			<p>「相手の受け入れの心」</p> <p>○謙虚な心もち、広い心で自分と異なる意見や立場を大切にしようとする心情を養う。</p> <p>◆互いの考えを認め合いながら生きることが、よりよい集団をつくる上でかかせないことに気付かせる。</p> <p>【かかわる】</p>	<p>「花いっぱい作戦」</p> <p>○自分たちで栽培した花のプランターを「花いっぱい作戦」として地域に設置する活動を通して、人のために役立つ喜びを体験する。</p> <p>◆地域のかかわりの中で社会性をばぐくむ。</p> <p>◆花いっぱい作戦を通して自分の役割や責任を自覚させる。</p> <p>【かかわる】</p> <p>【はたす】</p> <p>【はたす】</p> <p>【はたす】</p> <p>【はたす】</p> <p>【はたす】</p> <p>【はたす】</p> <p>【はたす】</p>	<p>「自分のよさを重畳めよう」</p> <p>○自分のよさに気付かき、友達に認めてもらうことで、自信をもって生活する。</p> <p>◆自分のよさを重畳ける活動を通して、自己理解を深化させる。</p> <p>【かかわる】</p>	<p>「学級花壇の整備活動」</p> <p>○よりよい環境をつくるために、行動する責任ある行動をとることが出来る。</p> <p>◆学級花壇の整備活動など、身近な環境美化への取組を通して、自分の役割を自覚させる。</p> <p>【はたす】</p>
2		<p>「江戸の文化と新しい学園」</p> <p>○江戸の文化をつくり上げた人々や、国学や蘭学のかかわった人物の中から一人取り上げ、学問や文化の特色、社会に与えた影響、人物の思いをまとめることができる。</p> <p>◆取り上げた人物の業績や生き方から、将来の生活や仕事に夢や目標をもつことの大切さに気付かせる。</p> <p>【もとめる】</p>			<p>「立体に誘うー12年後のわたしー」</p> <p>○自分の将来やその様子想像し、その内容が分かるように場面を工夫しながら、紙粘土などの材料を使って立体に表現する。</p> <p>◆制作活動を通して、自分の将来の姿を夢見させ、夢を膨らませる。</p> <p>【もとめる】</p>	<p>「バスボール型ソフトボール」</p> <p>○俵点をとるための出しと進塁ができ、また、チームをとり守備の隊形をとってアウトにする動きができる。</p> <p>◆同じ目標に向かってチームとして活動し、かかわりにより人間関係を築こうとする気持ちをばぐくむ。</p> <p>◆チームのために自分の役割や責任を果たそうとする意欲を高める。</p> <p>【かかわる】</p> <p>【はたす】</p>	<p>「先輩の話を聞く会」</p> <p>○社会で活躍するゲストスピーカーの話を聞くことにより、将来の夢をもち、夢に向かって努力しようとする態度を育てる。</p> <p>◆ゲストスピーカー(社会で活躍している地域の先輩)が、夢を切いた経緯や、よりよい生き方を考え、将来に向けて努力しようとする意欲を高める。</p> <p>【もとめる】</p>	<p>「先輩の話を聞く会」</p> <p>○社会で活躍するゲストスピーカーの話を聞くことにより、将来の夢をもち、夢に向かって努力しようとする態度を育てる。</p> <p>◆ゲストスピーカー(社会で活躍している地域の先輩)が、夢を切いた経緯や、よりよい生き方を考え、将来に向けて努力しようとする意欲を高める。</p> <p>【もとめる】</p>					
3	<p>「伝えよう、大切にしたい名言」</p> <p>○集めた名言の中から心に残ったものを選び、それにまつわる自分の経験や考えを簡潔に書くことができる。</p> <p>○選んだ名言について、話したいことを組み立てて工夫して話すことができる。</p> <p>◆名言や名言を聞いた歴史や人物の考え方や学習を通して、自分の生き方を考えさせる。</p> <p>【もとめる】</p>				<p>「I want to be a teacherー将来の夢を紹介しようー」</p> <p>○将来就きたい職業とその理由について紹介し合う活動を通して、自分の思いを伝え合うことの楽しさを体験する。</p> <p>◆外国語活動を通して、自分にかせようとする意欲を高める。</p> <p>【かかわる】</p>	<p>「I want to be a teacherー将来の夢を紹介しようー」</p> <p>○将来就きたい職業とその理由について紹介し合う活動を通して、自分の思いを伝え合うことの楽しさを体験する。</p> <p>◆外国語活動を通して、自分にかせようとする意欲を高める。</p> <p>【かかわる】</p>	<p>「I want to be a teacherー将来の夢を紹介しようー」</p> <p>○将来就きたい職業とその理由について紹介し合う活動を通して、自分の思いを伝え合うことの楽しさを体験する。</p> <p>◆外国語活動を通して、自分にかせようとする意欲を高める。</p> <p>【かかわる】</p>	<p>「I want to be a teacherー将来の夢を紹介しようー」</p> <p>○将来就きたい職業とその理由について紹介し合う活動を通して、自分の思いを伝え合うことの楽しさを体験する。</p> <p>◆外国語活動を通して、自分にかせようとする意欲を高める。</p> <p>【かかわる】</p>					

主題名 相手を受け入れる心

資料名 ブランコ乗りとピエロ

第6学年

道徳の時間

### 〈本時のねらい〉

○謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を大切にしようとする心情を養う。

### 志教育の視点

・互いの考えを認め合い、かかわり合いながら生きることが、よりよい集団をつくる上で欠かせないことに気付かせる。

### 〈学習の流れ〉

#### 1 普段の生活の中での体験を想起する。

- これまでの生活の中で、友達と考えや意見が違って困った経験についてワークシートに書く。
- ・発表できるものについて、2～3名発表させる。

#### 2 資料「ブランコ乗りとピエロ」について考える。

- ピエロとサム的心情について考える。
- ・演技を見てもらえなかったピエロ的心情を考える。
- ・サムの立場とピエロの立場の2つのグループに分かれて考えを出し合い、その後で全体で意見交換を行う。
- ・ピエロの心からサムを憎む気持ちが消えたわけを考える。

#### 3 人間関係について自分のことを振り返るとともに、友達の考えを知る。

- 日常生活の中で、自分と違う意見や考えが出たとき、どう解決しているか、自分の考えを書く。その後、発表し意見交流を行う。

#### 4 教師の説話を聞く。

- ・生き方への関心を高め、自分の生き方に目を向けられるような説話を工夫する。

#### ポイント

●異なる考えを受け入れ、互いを認め合い協力することが集団の中で必要であることに気付かせるよう、サムとピエロの立場の考え方に触れる場の設定や、手法を工夫しましょう。

#### ポイント

●自分と異なる考えを大切にできる場面は、身近にあることに気付かせるような教師の働きかけが大切です。また、意見交流の中で、個々の考えを深めさせましょう。

### 夢をはぐくみ志に高める手だて

・互いの考えを認め協力して生活することが、よりよい集団をつくる上で欠かせないことに気付かせるために、多様な考え方に触れる場の設定や手法を工夫する。

題材名

自分のよさを見つめよう

第6学年

学級活動

〈本時のねらい〉

○自分のよさに気づき、友達に認めてもらうことで、自信をもって生活できるようにする。

志教育の視点

- ・自分のよさを見つける活動を通して、自己理解を深化させる。

〈学習の流れ〉

1 MAPのアクティビティを行う。

- ・MAPの手法を取り入れ、本時の学習に取り組みやすい雰囲気をつくる。「キャッチ」、「進化論じゃんけん」等。

2 自分のよさを見つける。

- ワークシートに自分のよさ（長所）を5つ書く。
- ・2分間など短い時間設定の中で行わせる。短時間で書けない児童がいれば、机間指導で助言しながら、少なくとも2つ程度は書けるようにする。
- ワークシートに自分の短所を5つ書く。（1分間）
- どちらが書きやすかったか考える。
- ・自分のよさよりも短所に目がいきやすいことに気付かせる。

3 友達のよさを見つけ、伝える。

- 班の一人一人について、カードにその人のよさを書いて渡す。
- ・十分な時間を取るとともに、よさに目を向けさせるようにする。
- ・カードは、楽しい雰囲気になるものを工夫する。

4 自分のよさを見つめ直す。

- 友達からもらったカードを自分のワークシートに貼り、自分で書いたものと比べ、自分のよさを見直す。
- 感想や考えたことをワークシートに書く。

5 まとめ

- ・自分の可能性の広がりや今後の生活に期待や希望がもてるようなまとめの話をする。

ポイント

- 最初のよさや短所を見つける段階では、今の自分の状況を見つめさせるという活動を重視します。思春期に近づく時期には、自分や他者の短所に目がいきやすいことに気付かせることが大切です。

ポイント

- 自分にはよさがたくさんあること、友達が自分のよさを認めていることに気付かせることが大切です。そのためには、教師が班活動の中で、個々の児童に目を配り支援していくことが必要です。

夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・自己理解を深化させるために、自分でよさを見つける活動や友達によさをみつけてもらう活動の場を設定する。

題材名

先輩の話を聞く会

第6学年

学級活動(学年集会)

〈本時のねらい〉

○社会で活躍するゲストティーチャーの話を聞くことにより、将来の夢をもち、夢に向かって努力しようとする態度を育てる。

志教育の視点

- ・ゲストティーチャー(社会で活躍している地域の方等)が、夢を抱いた経緯や、その実現に向けて努力を重ね現在の姿があることに気付かせ、夢をもとうとする気持ちをはぐくむ。

〈学習の流れ〉

1 ゲストティーチャーを知る。

- ・ゲストティーチャー(社会で活躍する地域の方)について紹介し、本時への期待を高める。
- ・社会で活躍している方については、有名な方だけでなく、町長さん、幼稚園時にお世話になった先生、ケーキ屋さんのパティシエなど、身近にいる方も候補として考える。

ポイント

- ゲストティーチャーについては、児童の実態を踏まえ、今児童に気付かせたい姿を意識して選定することが大切です。

2 ゲストティーチャーの話を聞く。

- ・仕事の内容、その仕事を目指したきっかけや理由。
- ・その仕事につくまでの努力。
- ・その仕事の喜び、大変さ、これからの目標など。

ポイント

- 卒業生や地域にゆかりのある人の話を聞き、交流することで、同じ学校、地域で学んでいることに誇りを感じることができます。

3 ゲストティーチャーと触れ合い、交流をする。

- 直接ゲストティーチャーと触れ合う。
- ・ゲストティーチャーの業績にかかわるような交流する場等を設定する(文化関係、スポーツ関係、研究関係、企業関係等)。

ポイント

- ゲストティーチャーの話などから、自分の夢や生き方に目を向けられるような教師の働き掛けが大切です。

4 ゲストティーチャーと意見交換をする。

- ・講話や交流を通して、新たに聞いてみたいことを質問する。
- ・ゲストティーチャーに感想や意見を話す。

5 まとめ

- ・各学級でゲストティーチャーの話を振り返り、感想を書いたり、感じたことや思ったことを話し合ったりする。

夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・夢をもとうとする気持ちをはぐくむために、ゲストティーチャー(地域の方)を迎え、話を聞いたり交流したりする場の設定や手法を工夫する。

単元名

花いっぱい作戦

第6学年

総合的な学習の時間

か  
か  
わ  
る

〈本時のねらい〉

- 自分たちで栽培した花のプランターを「花いっぱい作戦」として地域に設置する活動を通して、人のために役立つ喜びを体験する。

志教育の視点

- ・地域とのかかわりの中で社会性をはぐくむ。
- ・花いっぱい作戦を通して自分の役割や責任を自覚させる。

は  
た  
す

〈本時の活動〉（4 / 4時間）

1 「花いっぱい作戦開始式」を行う。

- 活動のねらいを再確認し、活動の見通しをもつ。
- ・ねらいと分担（リーダー、時計係等）、設置場所（商店、公共施設等）の確認。
- ・グループの目当てと作戦の発表。

ポイント

- 設置の取組の中で地域の方と積極的に交流させ、社会との結び付きを実感させることが大切です。

2 「花いっぱい作戦-1」（プランターの設置）に取り組む。

- 設置場所（商店、公共施設等）の方にあいさつ（自己紹介、ねらいの説明など）をしてから活動する。
- ・これまでの活動の経緯について説明する。
- ・水やりなど、今後自分たちがどのように管理していくか説明する。

ポイント

- ポスターを設置することにより、地域の方々に活動内容を伝えるとともに、自分たちの果たす責任について自覚を高めさせることが大切です。

3 「花いっぱい作戦-2」（ポスターの掲示）に取り組む。

- ・事前に、ねらい、花の種類、栽培の経緯などを盛り込んだポスターを作成しておく。
- ・自分たちの思いを地域の方に伝える工夫をする。

4 「花いっぱい作戦終了式」を行う。

- グループの代表が作戦結果を発表する。
- ・地域の人とのかかわりや協力した活動の仕方について発表する。

夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・人のために役立つ喜びを味わい、社会の一員としての自覚を高めるために、地域に貢献する活動の場を設定する。

活動名

地域の伝統工芸に触れよう

6 学年

総合的な学習の時間

### 〈単元のねらい〉

○地域の伝統工芸を支える人たちの思いや信念に触れ、働くことの意義を考えることができる。

### 志教育の視点

・職場訪問学習を通して、働くことの意義や自分の生き方を考えさせる。

### 〈活動の流れ〉

#### 1 自主研修（職場訪問）先を考え、決定する。

- ・幾つかの伝統工芸品や製品を提示し、職場訪問先を考えさせる。
- ・興味をもった工芸品や製品などから、グループで話し合い、訪問先を決める。
- ・調べたいことや聞きたいことを吟味し、訪問先への質問事項を決める。
- ・事前に質問やお願いを電話やFAXで訪問先に知らせる。
- ・自主研修後にポスターセッションをすることを知らせ、発表を意識させる。

#### ポイント

- その工芸品が作られた地域等の背景を踏まえ、観点を決めて訪問するように指導することが大切です。

#### 2 修学旅行の自主研修で職場訪問をする。

- ・訪問先で働く人に、仕事に対する思いや苦勞、喜びについてインタビューをする。
- ・働く人の姿や質問から得た情報など、仕事に対する自分の思いを自主研修ノートに記入する。

#### ポイント

- 働くことの意義や情熱、苦勞などをまとめることで、社会人、職業人としての意義や役割について気付かせることも大切です。

#### 3 訪問学習のまとめをし、発表する。

- ・職場訪問の成果を保護者や在校生に紙面やビデオ、劇など様々な方法でポスターセッションをする。

#### 4 訪問先にお礼状を書く。

- ・訪問したことに対するお礼の他、学んだことを発表会の写真などを添えて手紙に書く。

### 夢をはぐくみ志に高める手だて

・働くことの意義や自分の生き方を考えさせるために、体験を共有する場を設定するとともに、ポスターセッションを取り入れるなど、発表の方法を工夫する。

単元名

ふるさとを知り・学び・生き方を見つめよう

第6学年（学校支援地域本部事業活用事例）

総合的な学習の時間

〈単元のねらい〉

- 町には、江戸時代に商いで富と文化をもたらした偉人の歴史があり、儲けにこだわらず「地域の発展」に貢献した「生き方」に気付く。
- 地域の方々との交流と農作物栽培の体験を通して町の歴史を紐解き、郷土のすばらしさに誇りをもって、社会貢献に通じるよりよい生き方を見つける。

志教育の視点

- ・郷土のよさに気付き、社会貢献の視点で自らの生き方を考え、将来に向かって学ぼうとする意欲を高める。
- ・地域の方々と共に行う体験的な活動を通して、地域の中でよりよい関係を築こうとする気持ちをはぐくむ。
- ・地域について学ぶことで、自己の役割を自覚させる。

〈単元の流れ〉

1 町の偉人について学ぼう。



- ・町の偉人について調べ学習を行い、疑問や知りたいことを質問としてまとめる。
- ・偉人を祖先にもつ地元の有識者より商いを通じた偉人の生き方を学ぶ。
- ・偉人の生き方と現在の生活を比較し、将来の生活の在り方を考える。
- ・社会教育施設で、町の歴史と偉人のことについて学ぶ。
- ・学んだことを個人新聞にまとめ、発表を行う。

ポイント

- 地元の方を講師に迎えることで、郷土に誇りを持ち、偉人の知恵や社会奉仕の心、人としての生き方を学ぶことができます。

2 農作物を栽培しよう。



- ・地域で昔から栽培されていた農作物を調べる。
- ・地元の産業に貢献している専門家から、作物の栽培方法と作物に関する産業について学ぶ。
- ・栽培を実際に体験し、商業用作物栽培の留意点及び世話の大切さや苦勞を知る。
- ・収穫の喜びを得る。

ポイント

- 地域の方々との協働による学習で、地域の方々のかわりがより実感できます。
- 専門家の指導による農作物の栽培体験と製品化を通して、働くことの楽しさや喜び・工夫を学ぶことで、地域の中で果たすべき役割に気付くことができます。

3 収穫した作物を活用しよう。

- ・地元で加工されている製品を調べる。
- ・収穫した作物の加工方法を地域住民から教わる。
- ・収穫した作物の製品化に挑戦する。
- ・製品化によって地域の活性化に貢献していることを知る。

夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・将来に向かって学ぼうとする意欲を高めるとともに、自分の在り方生き方を考えさせるために、学校支援地域本部事業を活用し、地域と協働の学習を設定する。

活動名

学級花壇の整備活動

第6学年

その他の活動

〈活動のねらい〉

○よりよい環境をつくるために、進んで責任ある行動をとることができる。

志教育の視点

・学級花壇の整備活動など、身近な環境美化への取組を通して、自分の役割を自覚させる。

〈活動の流れ〉

1 学級花壇の整備計画を立てる。

- 自分たちの花壇という意識をもって、春の花壇の掘り起こしや植栽から、秋の花壇の後始末までに必要な役割と分担を話し合う。
- ・春から秋まで、継続できる活動にする。
- ・できあがりイメージしながら、植栽の品種や計画を立てる。

2 学級花壇の維持・管理を行う。

- 計画した役割分担を基本に活動する。
- ・2～3回の植栽，施肥及び球根掘り等
- ・毎日の水やり，随時の除草
- 維持・管理の活動状況や花壇の状態を写真にして掲示したり，朝の会などで変化を発表したりする。
- 活動時間ごとに振り返りの場を設定する。

ポイント

●随時，活動を振り返らせ，頑張りを認めることで，活動意欲の維持・高揚を図りましょう。

3 環境を整えることの意義を実感し実践意欲をもつ。

- 継続して役割を果たした成果を，花の開花を観察することにより実感する。
- 下学年の花壇の整備の支援や校庭の環境整備へ活動を広げる。
- 朝会や昼の放送などを活用して，環境美化の取組を発表する。

ポイント

●学級花壇だけでなく，校内の環境にも目を向けさせ，改善しようとする態度を育てていきましょう。

夢をはぐくみ志に高める手だて

・活動への意欲を高めるために，自分や友達の頑張ったことを伝え合う場を設定する。

は  
た  
す

単元名  
伝えよう、大切にしたい名言

第6学年  
国語科

も  
と  
め  
る

〈単元のねらい〉

- 集めた名言の中から、心に残ったものを選び、それにまつわる自分の経験や考えを簡潔に書くことができる。
- 選んだ名言について、話したいことの組み立てを工夫して話すことができる。

志教育の視点

- ・名言や名言を残した歴史上の人物の考え方や生き方を調べる学習を通して、自分の生き方を考えさせる。

〈単元の流れ〉

- 1 教材文を読んで、学習のねらいや活動の流れを知る。
  - ・教材文を学習した後に、興味をもった名言等について身近な大人に取材をしたり、調べたりする。
  - ・調べたことを基に、自分の考えをまとめ、話す学習であることを知る。
- 2 語り継がれていることわざや名言が数多くあることを知る。
  - ・知っていることわざや名言を出し合う。
  - ・教師の話聞き、名言にはそれを残した人物の生き方が深くかかわっていることを理解する。
- 3 ことわざや名言について調べる。
  - ・自分が興味・関心をもった言葉について、もっと知りたいことを身近な大人に取材したり、本やインターネットなどで調べたりする。
- 4 心に残ったことわざや名言等について発表し合う。
  - ・心に残ったことわざや名言等をあげ、その理由についても発表し合う。
- 5 自分の名言集を作る。
  - ・自分の調べたことわざや名言と友だちの発表した名言等からいくつか選んで、自分の名言集を作る。
  - ・名言集は、教室に掲示した後、家庭に持ち帰って説明し、家族からコメントをもらう。

ポイント

- エジソンなど児童がよく知っている人物の言葉を取り上げます。名言が生み出された背景や言葉に込められた思いを知ることによって言葉の意味を深くとらえさせることが大切です。

ポイント

- 身近な大人への取材活動では、なぜその言葉が心に残ったのかについて聞くようにさせ、その人の生き方に触れさせましょう。

夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・先人の思いや願いに触れることができるような、調べ学習や発表の場を工夫するとともに、自分の生き方まで高められるような機会（家庭との連携など）を設定する。

単元名

江戸の文化と新しい学問

第6学年

社会科

## 〈単元のねらい〉

○江戸の文化をつくり上げた人々や、国学や蘭学にかかわった人物の中から一人取り上げ、学問や文化の特色、社会に与えた影響、人物の思いをまとめることができる。

## 志教育の視点

- ・取り上げた人物の業績や生き方から、将来の生活や仕事に夢や目標をもつことの大切さに気付かせる。

## 〈単元の流れ〉

1 江戸の文化をつくり上げた人々や新しい学問に取り組んだ人物の中から、業績や生き方等についてまとめたい人物を一人選択する。

- 選んだ人物と選んだ理由について発表する。
- ・国学や蘭学、文化等にかかわった、人物の働きについて考える。

## ポイント

- 何に心をひかれ人物を選んだのかを確認することは、夢や希望を抱かせることにつながります。

2 選んだ人物についてまとめる。

- 教科書や資料集、これまでの学習ノート、持ち寄った資料等を活用する。
- 事実や果たした役割、新しい時代への動きに影響を与えたこと等をまとめる。
- 当時の社会背景等から、想像できる苦労等も含めてまとめる。

## ポイント

- 業績を成し遂げるまでの努力や苦労に気付くことで、歴史上の出来事とかかわりながら精一杯生きた生き方に目を向けさせることにつながります。

3 発表会を行う。

- 調べて分かった事実や果たした役割等について発表する。
- 人物の生き方について考えたことも発表する。

4 発表のまとめを行う。

## 夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・将来の生活や仕事の目標をもつことの大切さに気付かせるために、調べ学習を設定する。

題材名 楽譜を読もう  
楽譜を見ながら歌いましょう

第6学年  
音楽科

〈本時のねらい〉

○ハ長調の楽譜に親しみ、音程やリズムに気を付けながら視唱したり、拍の流れに乗って曲想を感じ取りながら演奏したりすることができる。

志教育の視点

- ・合唱への取組を通して、最高学年としての学級生活への期待感を高め、主体的に音楽に取り組む気持ちをはぐくむ。

〈学習の流れ〉

1 合唱曲「明日という大空」と出会う。

- ・「明日という大空」を鑑賞し、曲と出会う。
- ・鑑賞して気付いた点や歌詞に込められた思いについて発表する。
- ・この曲を選択した教師の思いを聞く。
- ・全員で朗読してみる。

ポイント

- 歌詞から想像する未来への希望を自分たちの今と重ね合わせようと考えさせることが大切です。

2 「明日という大空」を歌詞唱する。

- ・姿勢や口形など、基本的な技能に注意して歌う。
- ・前半と後半の特徴をとらえ、歌詞に込められた思いを表現して歌う。

ポイント

- 合唱により味わった一体感が学級生活にもつながることを意識させる教師の働きかけが大切です。

3 階名唱をしながら、音程やリズムに気を付ける。

- ・シンコーペーションのリズムや離れた音程に留意して歌う。
- ・楽譜を手がかりとして楽曲の特徴をとらえる。
- ・拍の流れを感じて、テンポに乗って歌う。

4 二部合唱に挑戦する。

- ・副旋律も歌ってみる。
- ・いろいろ組み合わせて二部合唱に挑戦してみる。
- ・歌詞に込められた思いを意識して歌う。

夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・最高学年としての学級生活への期待感を高め、主体的に音楽に取り組む気持ちをはぐくむために、ふさわしい合唱教材や指導法を工夫する。

題材名 (立体に表す)  
12年後のわたし

第6学年  
図画工作科

〈単元のねらい〉

○自分の将来やその様子を想像し、その内容が分かるように場面を工夫しながら、針金や紙粘土などの材料を使って立体に表す。

志教育の視点

・制作活動を通して、自分の将来の姿を考えさせ、夢を膨らませる。

〈単元の流れ〉

1 将来の自分や職業を想像する。

○作成シートに職業、場面、材料等をメモする。

〈準備物〉

教師・児童：空き箱、身近材など

教師：紙粘土、板材、木片、木工用接着剤、白ボール紙、  
段ボール紙、スチール針金、アルミ針金、ペンチ等

児童：はさみ、のり、水彩用具一式

ポイント

●将来の自分について肯定的にイメージさせることが大切です。社会の中で自分ができることは何かを考えながら作ることを意識させましょう。

2 自分像を制作する。

○考えた場面に合わせて針金で体の芯を作り、粘土などを使って自分の姿を制作する。

3 背景を制作する。

○作るものに合わせて材料を選び、接着や接合、用具の使い方を工夫して周囲の様子なども作る。

ポイント

●作品について話し合う時間では、制作についての工夫だけでなく、作品カードを基に、将来の自分や想像した職業の内容も話させるなど、自分の将来に夢を膨らませるような工夫が大切です。

4 作品カードに自分像に込めた思いを記入する。

- ・この自分像にした理由
- ・制作しながら考えたこと、これからの自分ができることなど

5 作品を鑑賞する。

○自分や友人の作品について、カードを基に表した内容や工夫した点などを話し合い、表し方のよさをとらえる。

夢をはぐくみ志に高める手だて

・将来の生活や仕事に夢や目標をもたせ、社会の中で自分ができることや果たすべき役割を考えさせるために、題材の設定や指導法を工夫する。

単元名

朝の生活を見直そう

第6学年

家庭科

〈本時のねらい〉

- 朝食の大切さを理解し、栄養バランスのよい簡単なおかずを考え、朝食づくりの計画を立てる。

志教育の視点

- ・家族の一員としての自分の役割を自覚させる。

は  
た  
す

〈学習の流れ〉

1 朝食の役割について話し合う。

- 朝食のとり方を振り返り、朝食の役割について資料を基に話し合う。
- ・栄養のバランスについても理解する。

ポイント

- 家族のことを考えた朝食づくりの計画を意識できるような教師の働きかけが大切です。

2 朝食調理の実践計画を立てる。

- 自宅で取り組む朝食づくりの計画を立てる。
- ・栄養バランスがとれるよう食品の組み合わせを考える。

ポイント

- 朝食づくりを通して家族の一員としての役割を果たすとともに、学習後も家族の中で自分を生かす生活の仕方を考えさせることが大切です。

3 計画を修正する。

- 朝食の計画について班内で発表し合う。
- ・自分の計画を発表し、栄養のバランスや組み合わせ等で気付いたことを教え合い、計画の修正を行う。

4 自分の役割について考える。

- ・朝食づくりを通して、家族への感謝の念をもたせるようにする。

夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・家族の一員としての家庭での役割を自覚させるために、題材の設定を工夫する。

単元名 ベースボール型  
ソフトボール

第6学年  
体育科

か  
か  
わ  
る

### 〈本時のねらい〉

○得点をとるための出塁と進塁ができ、また、チームとして守備の隊形をとってアウトにする動きができる。

### 志教育の視点

- ・同じ目標に向かってチームとして活動し、かかわることを通して、よりよい人間関係を築こうとする気持ちをはぐくむ。
- ・チームのために自分の役割や責任を果たそうとする意欲を高める。

は  
た  
す

### 〈学習の流れ〉

#### 1 本時の学習課題を確認する。

○全体の学習課題を確認するとともに、チームごとに本時の目標や練習内容を話し合う。

得点をとるための出塁と進塁ができ、また、チームとして守備の隊形をとってアウトにする動きができるようにする。

- ・学習カードを活用し、チームで本時の目標、練習内容、役割分担を話し合う。特にチームの課題の解決に向けた練習を考える。

#### ポイント

- チームの課題に合った目標や練習計画を立て、意欲をもって取り組めるよう、教師がチームの実態を把握し、的確に助言することが大切です。

#### 2 チーム練習を行う。

○チームごとに課題に合わせた練習方法を取り入れる。

- ・チームで課題を解決するために、協力して練習に取り組む。
- ・お互いの役割を確認し、打球の方向に移動して捕球する練習、相手の胸の辺りにしっかりと投げる練習などを行う。

#### ポイント

- 学習カードを活用し、チームとしての活動や、個々の役割を果たすことができたかなど、観点を明確にして学習を振り返らせることが大切です。授業の始めと終わりに同じ観点を話し合わせることで、チームとしての意識を高めることができます。

#### 3 練習試合を行う。

○イニング数を少なくしたミニゲームを行う。

- ・チームで作戦を立て、役割を確認する。
- ・練習したことが出せるように声をかけ合い、協力して試合を行う。

#### 4 学習の振り返りを行う。

- ・学習カードを活用し、チームの目標に対する達成度や練習、試合の反省、改善点について話し合う。

### 夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・チームの一員として互いに支え合い、役割を自覚して目標を達成しようという意欲を高めるために、練習内容を話し合ったり、学習を振り返ったりする場や学習カードを工夫する。

単元名 I want to be a teacher  
将来の夢を紹介しよう

第6学年  
外国語活動

〈本時のねらい〉

○将来就きたい職業とその理由について紹介し合う活動を通して、自分の思いを伝え合うことの楽しさを体験する。

志教育の視点

・外国語活動を通して、自分や友達のよさに気付かせる。

〈学習の流れ〉

1 様々な職業の言い方を知る。

○職業絵カード等を活用する。

2 世界の国々の子どもたちの就きたい職業を知る。

○世界の国々の子どもたちも将来に夢を描いていることを知るとともに、自分の将来就きたい職業について考える。  
・文化的・社会的背景やその他の要因により、国や地域によって子どもたちの夢や就きたい職業が異なることを知る。

3 将来就きたい職業について尋ねたり答えたりする。

○友達とのやり取りを通して、尋ねたり答えたりする言い方に慣れ親しむ。  
・何になりたいかについての尋ね方や答え方を知り、自分の夢について考え、表現しようとする意欲を高める。

4 学習の振り返りをする。

ポイント

●保護者の職業や地域の実態に応じた職業についても用意しましょう。

ポイント

●シートの活用など、先生や友達とより多く交流できるような活動を工夫しましょう。

夢をはぐくみ志に高める手だて

・互いのよさに気づき、活動への意欲を高めるために、将来就きたい職業を伝え合う活動の場を設定する。